



「見たり、聞いたり、探ったり」No.208

通算 No.360

青 木 行 雄

「美しき・山国川」(大分県中津市)

山国川は九州・大分県中津市山国町、英彦山^{ひこさん}付近を源流として南東方向に流れ、中津市山国町守実付近で北東方向に90度近く向きを変える。私の生まれたふるさと中津市耶馬溪町、中津市本耶馬溪町と続き、歴史の街・青の洞門、禅海和尚が「ノミ」と槌だけで30年もの歳月をかけて掘抜いたと言われるトンネルの下を通り、中津市三光に入ると、福岡県築上郡上毛町と接する。この中津市耶馬溪町は合併前は大分県下毛郡耶馬溪町と言った。今は中津市耶馬溪町となった。

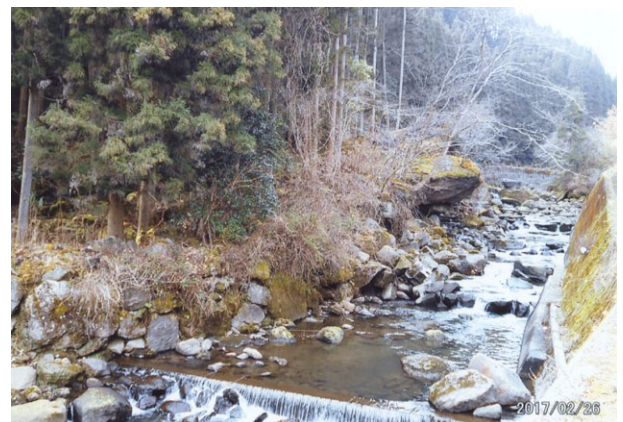
中津市と福岡県築上郡吉富町の県境に架かる山国橋付近で二手に分かれ、中州である「小祝」^{こいわい}の東側は中津川と名を変える。

上・中流域の渓谷は耶馬溪と呼ばれ、景勝地として知られている。前に記した青の洞門や猿飛の^{おうけつぐん}甌穴群など急流による渓谷が多く、観光客も大変多い。大井手堰から上流は、1923年(大正12)に名勝に、鮎帰りの滝から上流は、1950年(昭和25)に「耶馬日田英彦山国定公園」にそれぞれ指定された。上中流域では11月後半の紅葉の季節は絶景である。

この山国川は英彦山を源流とするのだが、中津市の海、周防灘まで延長56kmあるといい、大分県では4番目に長い川である。英彦山と言えば山岳信仰で大変有名な山で福岡県と大分県にまたがる山だが、源流の山国川は栄養分を大量に含む水で知られ、沖代平野に流れ込み、おいしい魚貝の栄養となる。特に魚の「ハモ」は日本でも有名で、良品は京都に送られ、京都のハモ料理の多くは中津産と言われている。

山国川は、平安時代には御木川^{みけがわ}と呼ばれた。その後は地域によって、高瀬川、広津川、小犬丸川等と呼ばれたこともあるようだ。高瀬川という名称は現在の中津市高瀬地区、広津川という名称は現在の吉富町広津地区にそれぞれ由来するようである。

1600年(慶長5年)に細川忠興が中津城に入封する



※山国川・上流部



※山国川・上流部

と、^{かなや}金谷堤を築造して当時の山国川の本流であった
^{おおえがわ}大家川を締め切って中津城の外堀として利用し、当時
派川であった中津川を本流としたと言う。その後、
1655年(明暦元年)及び1669年(寛文9年)の2度の洪
水によって新たな派川が生じ、本流との間に中州(小
祝島)が出来たといわれる。江戸時代、山国川の河口
域は高瀬川と呼ばれており、このうち、中州(小祝島)
の中津城側の川(現在の中津川)は表川や中津川と、京
泊側の川(現在の山国川)は裏川や小犬丸川等と呼ば
れた。江戸時代には、新しく生じた川(現在の山国川)
の水量は少なく、現在の中津川が本流であったが、
1889年(明治22年)の洪水で流量が逆転し、現在のよ
うに山国川が本流となったのである。

明治に入ると、この川の総称はいったん中津川に決
まりかけたが、1875年(明治8年)12月23日に小倉県
により山国川とすることが布達されたと記されている。
山国川という名は、上流の溪谷がかつて山国谷と
呼ばれていたことに由来するようである。

1948年(昭和23年)から国の直轄事業による改修工
事が行われ、1966年(昭和41年)に河川法の施行に伴
い一級水系に指定された。

『美しき山国川』(作詞:青木行雄、作曲:梶原豊樹)
の歌詞にある、「雨の一滴、英彦山からは谷が集まり
川となり」の部分について解説してみたい。

上志川、金吉川、山移川、折戸川、津尾川、^{みおも}三尾母
川、^{あとだ}跡田川、^{ともえだ}尾形川、友枝川、黒川、中津川(派川)、山国川はこんな小さな谷・川が集まって本流の山国
川となったのである。

ここで、歴史と建造物について記してみたい。

前にちょっとふれたが、江戸時代、禅海和尚がノミと槌だけで30年歳月をかけてこの青の洞門を掘抜い
たものでその後幾度かの拡張工事が行なわれ現在に至ったが、名勝・耶馬溪においては重要な観光地であり、
年間約170万人の観光客が訪れるという。



※山国川の上・中流部



※美しい山国川の溪谷



※山国川の上・中流部

また歴史的構造物に山国川にかかる石橋がある。特に本耶馬溪町に架かる耶馬溪橋(別名オランダ橋)は日本唯一の8連アーチ石造橋であり、橋長116m、大正時代に架設されたものである。

山国川の水はこんな橋の下を流れて周防灘に注ぐが、上流の橋から記してみた。

橋 No.

- 1 中津留橋
- 2 第二山国川橋
- 3 津尾大橋
- 4 城井橋
- 5 馬溪橋-石造5連アーチ橋
中津市指定有形文化財
- 6 早瀬橋
- 7 七仙橋
- 8 羅漢寺橋-石造3連アーチ橋
大分県指定有形文化財
- 9 羅漢寺大橋
- 10 洞門橋
- 11 耶馬溪橋-石造8連アーチ橋
大分県指定有形文化財
- 12 新大平橋
- 13 三原橋
- 14 新山国大橋
- 15 恒久橋
- 16 市場橋
- 17 山国大橋
- 18 山国橋

特に2012年(平成24年)の7月の豪雨で大きな被害を受け、橋に大木等が引っかかり川の水があふれた為、橋の存続があやぶまれたが改修工事をして開通している。(現在、一部工事中。)

このような環境で育った私は、朝夕、この美しい山国川の瀬音を聞きながら成長した。1956年(昭和31)当時、中津から東京に出るには「高千穂」と言う急行列車があって約30時間あまりかかったと思う。その椅子の下にもぐりながら東京に着いた。途中富士山を見て、大変感動した事は今でもはっきり覚えている。



※橋No.5、馬溪橋、5連の橋で文化財に指定されており、平成24年7月の大水害で被害を受け暫定的な措置として平成26年6月に通行が再開している。(現在、一部工事中。)



※No.8の羅漢寺橋、石造3連アーチ橋、青の洞門の上流にある。



※禅海和尚が掘ったと言われる「青の洞門」。秋は紅葉で大変きれいである。

この山国川の見えるちょっと上の高台に実家があって、朝日をまともに受ける東向きの斜面で大変環境の良い所だった。

昔のことを思い出しながら、この山国川の上流から改めて見て廻り、別紙のこの歌詞が出来上がった。

6月には、蛍がいっぱい飛びかった年もあって思い出も多くなつかしい。

こんな事から、高齢にもなったので、何か残したいと思い、この『美しき山国川』の歌詞に知人の「梶原豊樹」先生にお願いし、歌唱は大分県に大変かわりの深い「芹洋子」氏にお願いしようと思ったが、簡単には受けてくれるはずがない。『四季の歌』などで有名な彼女は、以前『坊がつる讃歌』（大分の山）と言う曲で大ヒットし、大分県に記念碑まで出来た持主である。こんな事から、交渉を重ね、私の熱意にほだされたのか、私の作詞2曲、『温泉大分日本一』と『美しき山国川』をいずれも「梶原豊樹」先生の作曲であるが、歌唱の芹洋子氏がキングレコードの所属なので、このレコード会社より平成29年7月1日に全国発売となった。なんとラッキーな人生である。2年前には、夢にも思っていない出来事である。そして東京木材間屋協同組合の広報誌「組合月報」に寄稿させて頂き通算30年、寄稿させて頂いた作品をまとめた『木・氣・樹』の出版が叶い、本の帯を太田道灌18代子孫、太田資暁氏にお願いし、本の題名を有名な「柏木白光」（書家）先生に書いて頂きました。この上ない幸せを感じているところである。

平成29年5月27日

参考資料

『大辞林』 三省堂

『日本史年表』 岩波書店



※橋No.11 耶馬溪橋、別名オランダ橋とも言われ、日本唯一の8連アーチ石造橋で橋長116m、大正時代に架設された、大変めずらしい石橋である。平成24年7月に豪雨で一部破損したが、復旧工事が完了し、開通している。（現在、一部工事中。）



※周防灘



※周防灘に注ぐ山国川

♩=93

美しき山国川

作詞:青木行雄
作曲:梶原豊樹

あめのいつてきひこさんからは
 きほのいつてきやばけいさんは
 めのいつてきしんやばけいは

たにーがあつまりかわとながりれきよ
 ふかーいあさけのなもみがわわきよ
 あさせにつどーいあいをうみほた

しーみちをとあおいりぬける
 いーせおとのあいなもあある
 とーなつてあらんぶあす

ゆめのまちへとたどりつくあ
 ながれながれてすおうなだーあ
 しきるよるこびくれたなかわ1. 2. ああ

あうつくしきのやまぐにがわよ
 あなつかしきのあすばらし

よ

美しき山国川

作詞 青木行雄

一、雨の一滴 英彦山からは
ひこさん

谷が集まり 川となり

歴史の道を 通り抜け

夢の町へと たどり着く

ああ 美しき 山国川よ

二、希望の一滴 耶馬溪山は
やばけいさん

深い情けの 紅葉川
もみじがわ

清い瀬音の 愛もある
せおと

流れ流れて 周防灘
すおうなだ

ああ 懐かしの 山国川よ

三、夢の一滴 深耶馬溪は
しんやばけい

浅瀬に集い 愛を生み
あせ

蛍となつて 乱舞する
ほたる

生きる喜び くれた川
らんぶ

ああ 素晴らしき 山国川よ